
ワタシガコワシタモノ

夜光 沙羽 @惚気て良いですか？

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ワタシガコワシタモノ

【Nコード】

N6363Z

【作者名】

夜光 沙羽 @惚気て良いですか？

【あらすじ】

フランドール・スカーレット。彼女は孤独で、そして、狂気に満ちていた。

(前書き)

どうも、夜光です。昨日バイトをしているうちに突発的に浮かんできたので早速。

ちなみに壊れたフランちゃん視点ですので描写がおかしいところは『仕様』です。

第三者視点はやる気ないですね、はい。

ここから先は夜光の幻想郷が広がっています。

そう言ったものが耐えられないという方はマッハで戻るボタンをクリックしてください。

「すき家で一番美味しいのはやっぱりねぎ玉牛丼しょjk 後ひつまもいよいよね結局肉食えればそれでいいわ」と言う人はそのままページをスクロールしてください。

あ、あとあとがきに軽く茶番あります。

ああ、また1年が過ぎゆく。

このくらい暗い地下室の中で。私は目と呼ばれる物を掌に浮かせている。

目。握りつぶせばそれが破壊出来てしまう、私にしか見えない目。それゆえに私はあいつ、レミリア・スカーレットの手によってここ

に幽閉されている。

やっぱりあいつは私が大嫌いなんだ。

咲夜はこの優秀なメイド。らしい。

結局一回も私は彼女を見たことがない。いや、彼なのかもしれないけど。

私の事を怖がってるのかな？

いつも気がつけば食事が置いてある。何を弄っているのかななんて最初のころは考えてたけど。もう、考える必要はないか。

パチュリーはあいつの大切な大切なお友達。妹よりも大切な。

あいつにはレミィと親しげに呼ぶのに私には妹様とへりくだっている。勝手に。

私ってそんなに偉かったのかな？

それとも。

他人行儀にするだけで距離をとっているだけなのかもしれないね。あはっ。

小悪魔は私の姿を見たら一瞬で逃げる。あはは、当然だね。誰もこんな血にまみれたのを見て喜んで近づいてくる子なんていないよね……。

大丈夫。もう逃げなくてもいいんだよ。

いつしかあいつが涙を流していた。

ごめんなさい、フラン。愚かな私を許して、と。

くだらない。誇りなどどこへ捨て去ったのか。

私は、あっちに行けとあいつを向こうに追い払った。

美鈴は唯一私に普通に接してくれた。嫌がる素振りもなしに。けど、私を殴る。殴る。蹴る。蹴る。何で？ 何で？ ナンデ？ ナンデ？ 痛いいたいイタイイタイいたいイタイイタイ

[illegible]

[illegible]

魔理沙は此処に本を借りに来る人間だ。

パチュリー曰く本を盗みに来る傍迷惑な人間らしいけど。

それでも私ともいっぱいおしゃべりして、いっぱい遊んでくれた。

魔理沙は大好き。

だから、あなただけは、逃げて。

あなたを、壊したくないから。

あなたと一緒に、
ずっと一緒にいたいけど。

だから、涙を流さないで。

そのつま先を、向こうに向けて。

その、ミニ八卦炉を、私に向けないで。

あなたを、壊したくないの！！！！！！！！

お願いだから、その符名を叫ばないで！！

あなたが、尽きるまで。
恋をしていたかった。

霊夢は、博麗の巫女。

あいつがよく神社に遊びに行くのは霊夢がいるから。

でも、この間ここにはいっぱい遊びに来てくれるって。そう言っ
た。

宴会のたびにここにきては、私をいっぱい構ってくれた。

それもそのうち減って行く。

冥界に飛び立ったと思えば迷いの竹林へ。

このごろは此処になんて来てくれない。

あいつはいいよね。自由に外に出られるんだから。

私は出られない。ここに囚われたまま……。

いつでも来てあげるって言うのは、嘘だったの？

だから、今日彼女が来てくれた時には本当にうれしかった。
痛いよ。痛いよ。楽しいよ、うふ、アハハハハハハハハハハ！

そうして、みんなのお人形は壊れちゃった。

みんなバラバラ。手も足も、首も動体も。五体満足なのなんていなかった。

へえ。咲夜ってこんな顔してたんだ……。

お姉さまのこの泣き顔、堪らなく愛おしいわ。

あれ、そうか。

気付いてしまった。

みんなみんな、私がいなくても生活できていたよね？

私が人とのつながりを求めていただけ。

アハッ！

なあんだ。

ジャマダツタノハワタシノハウジャナイカ！！

(後書き)

麟「……と、もしかしたらこんなこともあったのかもしれないね」

フラン「何それ怖い」

旋子「大丈夫なのだ！ フランには私がいるよ！」

フラン「えへへ！ そうだね！」

麟（仲いいなあ……。これならこんなこと起こるわけないよね）

狂気とか難しいっす。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6363z/>

ワタシガコワシタモノ

2011年12月21日11時49分発行